

#彩の国けんけつ NEWS!! 15号 ~2023年度~ 冬号



こんにちは!

埼玉県立常盤高校学校 看護科 JRC(青少年赤十字)部です!

常盤高校は看護師を育成する5年一貫の専門学校です。

未来の看護師である私たちから、

埼玉県民の皆様へ献血情報をお送りします!!

★ ★ さいたま赤十字病院を見学してみよう!! ★ ★

● なぜ見学に行ったのか!!

献血で集められた血液を治療としてどのような人が使っているのかを知りたいと血液センターの方に相談したところ、さいたま赤十字病院の見学と血液内科の三橋先生にインタビューする機会をいただきました。私たちが学んだことをこの献血新聞を通じて多くの方々に知ってほしいです。

また、当日は献血バスが来ていたため私たちも献血に挑戦してきました。

● 血液内科ってどんなところ?



血液内科とは手術では治せない血液の病気を抗がん剤などの投薬や輸血などで治療します。対象となる病気の例として、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病、再生不良性貧血などがあります。

血液内科の三橋医師にインタビューしてみた!!

事前に病院のHPで血液内科について調べ、質問したい内容を各自で考えてから伺いました



院内でどのくらいの血液を使用・保管していますか?

約1万単位の赤血球製剤を1年間で使用しています。
人によって使用量は変わりますが、使用期限があるため大量には保管出来ません。
例えば、血小板の使用期限は4日間です。O型の血液はすべての血液型に輸血することが可能なため、多めに保管しています。



1人の患者にどれくらい輸血用血液製剤を使用していますか?

週1回や2週間に1回など定期的に使う方や、抗がん剤投与後の副作用(骨髄抑制)に対し、適宜使用する方など患者さんによって様々です。
事故等で大量出血した場合には一度に大量の輸血をすることもあります。





輸血された血液が合わないことはありますか？

献血で集めた血液は、放射線照射をして白血球を破壊して安全に使用できるようになっています。しかし他人のタンパク質でまれにアレルギー反応を起こすことがあります。血小板製剤は、10人に1～2人の割合でアレルギー反応を起こすことがあります。



三橋先生ありがとうございました!!

献血するときに気を付けることは、貧血だと献血を受けられないので女性は特に鉄分を多く摂取することが大切です。

見学の感想

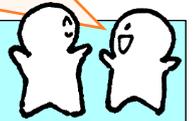
今回、病院見学に行ったことで、新しい知識を得られました。その中でもヘリポートを見られたことが印象的でした。ヘリポートはドラマの中の世界という感じがどこかにあったので、実際に見ることができてとても嬉しかったです。

ヘリポートの下階には待機する場所があり、風が強い時には安全のためにヘリが止まらないようにするなどの工夫があることを知ることができました。

素敵な体験をする機会をいただき、ありがとうございました。



実際に献血してみました!!



私たち13人中献血をすることができたのは、2人だけでした。献血をした人からは、看護師さんが話しかけてくれて、リラックスしてできたという声がありました。

献血可能な基準についてはこちらを参考にしてください。



編集後記

第15号もお読みいただきありがとうございます！

今回は、さいたま赤十字病院に伺い、血液内科の三橋先生に私たちが疑問に思ったことを質問しました。献血NEWS記事のスペースが少なく、その内容を全て記載することはできませんでしたが、たくさんのお話を伺うことが出来ました。将来看護師を目指す私たちにとって、とても貴重な機会となり、ドクターカーや施設の見学など、地域をどのように支えているかについても、学ばせていただきました。

見学が終わった後には、たまたま病院で献血を実施していたため献血をすべく、見学した全員が献血に参加しました。しかし、上記にも記載した通り、年齢や、服用している薬、血管の細さなど様々な理由があり、最終的に献血することができたのは、13人中2人だけでした。

このように、献血には様々な基準があり、献血をしたくても、できない人もいます。ぜひ、少しだけでもお時間があるのならば、献血ルーム献血バスに行き、輸血を必要としている方の力になりませんか？
皆様のご協力お待ちしております！

